

第3回意見交換会における論点概要

< 1 > 産学連携の課題について

- ✓ 大学にはスタディグループ、企業にはインターンシップという仕組みがあり、それぞれ経験と実績がある。さらに大学には人材がいて、企業にはニーズがあるにもかかわらず、期待されているものが生み出されていないのは、**両者を結びつけるプロセスが未成熟**であり、そのことが課題。
- ✓ 大きな大学では企業と数理人材のマッチングがある程度増えて、キャリアパスが出来上がりつつある。一方、地方大学には**個別の研究室に数理人材が分散しており、距離の制約もある**ため、マッチングの機会を得るのが難しい。拠点となる大学から、周囲の大学にも波及するような仕組みが必要。
- ✓ 数学専攻の学生に対して、産業界からは、専門知識と並んで**数学・数理科学以外への関心や取組む能力が求められている**。大きな大学では先輩がロールモデルとなるが、学会等を利用してそういった関心を育むことが大事。
- ✓ 数理人材が企業に採用される事例は増えているが、優秀な学生はアカデミアで身を立てたいという志向が強い。（アカデミア希望の学生が多いため、企業との交流の場に出てこない。）
- ✓ **クロスアポイントメントや兼職をやりやすくすることで**、お互いの活性化に繋がる。（既にクロスアポイントメントや兼職の制度はあるが、手続き負担や慣習によって活用されていないのでは。）
- ✓ クロスアポイントメントの前段階のような、教員が企業に滞在する取組を行うことにより、教育・共同研究も活性化した事例がある。教員も外に関心をもって出ていくことも必要。
- ✓ 企業の研究者が、特任教授のような形で修士・博士の学生を指導し、企業では手を出しづらいような中期的・挑戦的な課題に取り組むような仕組みを、もっと活用してもよいのではないか。

第3回意見交換会における論点概要

<2> AIと他分野との連携について

- ✓ ディープラーニングとシミュレータを融合するような動きが出てきており、大きく発展するはずなので、**その融合領域を議論できる人材も育成**できれば、日本のリアルワールドの強みが生かせると思う。
- ✓ AI・機械学習が他の工学領域を活性化させる図式が現れてきている。日本はAI以外に強みを持っている会社が多いため、**他の工学の理論数学と機械学習を上手く繋げることが重要**。

<3> その他

- ✓ **現代数学に触れる機会を数学科以外の学生にも設けていくことが**、産業界で活躍する上で、またその後の親から子供に影響を与える上で、重要ではないかと思われる。
- ✓ 政府投資のやり方が、もの作り分野や医療分野のやり方に偏っている。それら分野と数学は研究の進め方が異なるので、**数学に適した資金の投入の仕方に変えないといけない**。
- ✓ 共同研究成果としての知財の扱いに対する懸念は、分野によっても異なる。データサイエンス領域は進歩が速いため、企業にとって知財に拘泥することは必ずしも効率的ではない（使用権さえ得られればよい、という場合もある）。
- ✓ 学費的な問題もあり、学生が博士課程に進学することを渋る現状があるため、進学できるように制度をつくるのが有効だと思う。（すでにそういった取組を実施している大学や冠奨学金の中にインターンシップを要件として奨学金を出している事例もある）